

授業科目名 (講義題目)	パブリック・リレーションズ論 (株式会社サンブリッジコーポレーション提供講義)		開講学期 単位数	前期集中 2単位
担当教員	井之上 喬	講義コード	科目区分 対象学生	選 択 1・2年生
		20176020		
開講予定日	①②8/25 ③④8/26 ⑤⑥8/27 ⑦⑧8/31 ⑨⑩9/1 ⑪9/2 ⑫⑬9/3 ⑭⑮9/4			
履修条件	特にないが、パブリック・リレーションズに興味のある方、国際的に活躍したい方は大歓迎	キーワード	パブリック・リレーションズ、リレーションシップ・マネジメント、広報、メディア、CSR、危機管理、戦略、自己修正	
全体の教育目標	パブリック・リレーションズの手法を身に付け、ビジネスや日常生活で実践できるようにする。	個別の学習目標	①基本概念の学習・理解 ②事例研究による分析 ③具体的戦略プランの作成	
<p><授業の概要></p> <p>パブリック・リレーションズ(PR＝戦略広報)とは、目的や目標達成のために、倫理観をベースに双方向性環境の中で自己修正力を使い、さまざまなステーク・ホルダーと良好な関係を構築・維持するリレーションシップ・マネジメントのことをさす。この手法は、国際社会で知的かつ行動的に活躍する人材には必要不可欠なものとなっている。</p> <p>地球規模の変化やハイパー化するグローバリゼーション、混迷の続く社会情勢の中で、日本はいま、各分野で「真のリーダー」を必要としている。本講義の目的は、パブリック・リレーションズの手法を学ぶことで、こうした多極化する世界・社会の要請に応えた次世代を担うグローバル人材を育成することである。</p> <p>本講義受講後の到達目標は、下記の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ライフサイクル・モデルをベースに、パブリック・リレーションズの基本概念を学習し、目的達成に必要な「倫理」「双方向性コミュニケーション」そして「自己修正能力」を体得する ②双方向環境で状況の変化を読み取り、「自己修正」による柔軟な対応能力の必要性を把握する ③グローバルな視点による、状況の大局的な俯瞰・及び戦略性を持った総合的思考法を習得する ④上記を通じPRの理論とダイナミズムを学び、組織体がパブリック・リレーションズの手法を経営に取り込むことが如何に不可欠であるかを理解する ⑤ケース・スタディや報道分析を通じ、社会で起きている事象に「倫理」「双方向性」「自己修正能力」が如何に重要かを理解し、様々なリレーションズがどのように統合されているのかを体得する ⑥状況変化の読み取り方を学び、戦略性とスピードを伴ったリレーションシップ・マネジメントの重要性を理解し、パブリック・リレーションズ理論と実践の統合性を理解する。 ⑦グローバルな視点を持ち、地域を牽引する人材としての自覚を促し、21世紀のリーダーとしてあらゆる分野で、自立した、戦略性を有する知的かつ行動的な人間に求められるパブリック・リレーションズを、ビジネスに取り込む方法を理解する。 				
<p><授業の進め方></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆前半講義:パブリック・リレーションズの基本概念について学習。 ◆後半講義:理論主体の学習に加え、ケース・スタディとディスカッション、グループワーク(事前課題による戦略的なプランの作成・シミュレーション) <p>※9/2を除き、1日2コマ連続での講義実施となる。 ※予習のため、毎回教科書の指定箇所を読んでおくこと(詳細は初回に説明)。 ※ゲスト講師による講義も行う(一部変更の可能性あり)</p>				

<教科書および参考図書>

◎(受講前に受講者が入手する必要がある資料)

◆教科書: 井之上喬 著『パブリックリレーションズ』第2版 日本評論社(2015年)

●(知識を拓げるために読んだ方がよい資料)

◆主な参考図書等

- ①Inoue, T. (2018) Public Relations in Hyper-Globalization: Essential Relationship Management -A Japan Perspective, Routledge
- ②共同訳:カトリック・スコット, センター・アラン, ブルーム・グレン共著, 日本広報学会(監修), 『体系パブリック・リレーションズ』, (井上邦夫, 井之上喬, 伊吹勇亮, 北村秀実, 関谷直也, 矢野充彦 訳), 東京: ピアソン・エデュケーション, 2008
- ③井之上ブログ <http://inoueblog.com>

<試験・成績評価の方法等>

レポート	(40%)	期末レポート提出 (※6000字程度)
平常点評価	(40%)	3分の1以上欠席した者には単位を付与しない
その他	(20%)	講義への参加度および発表内容など